18 我が街 船橋を歩く―神社仏閣(16) 三峰神社―

29 期　仲田　元昭

今回は、前回ご案内の道祖神社の境内にある三峰神社をご案内します。

「三峰神社」

江戸時代になり神使の狼が、盗賊や災難から守る神と崇めるようになり、秩父の三峰神社を参詣する三峰講が関東、東北、信州等を中心に全国に組織され流行しました。

道祖神社も村を災難より守ることから、江戸時代に境内に建立されたと言われています。

鳥居から見た三峰神社社殿

「神社の神使　狼像」

三峰神社の神使は、狛犬ではなく狼ですが、この神社の狼像は優しい表情をしています。一頭で地域の 50 戸を守護する狼と言われています。

本殿に向かって右側が口を開いた阿形で、左側は口を閉じた吽形です。この狼像は明治 35 年(1902)9 月に奉献されました。

狛犬でなく狼像（阿形）

「神社彫刻の神獣」

本殿の屋根を支える 4 本の柱の上部の横木の先端（木鼻と言う）4 箇所の角に、獅子頭や象鼻(長い鼻、2 本の牙、頭の部分に丸いコブの動物)や獏鼻（鼻が象、体が豚に似た想像上の動物）や龍頭等の神獣が、取り付けられている神社が多くあります。

ここ三峰神社は小さな神社ですが、狼に似たような神獣でしょうか、大変珍しい険しい表情の彫刻です。

口を大きく開け、鋭い歯をむき出しにし、今にも襲い掛かってくるようです。神社彫刻にも視点を当て街歩きすると新たな興味が湧いてきます。

本殿木鼻の険しい表情の神獣

「19 我が街 船橋を歩く 神社仏閣(17)稲荷神社」に続く「2022-5-25 寄稿」